

お念仏と共に ～ 如来に念じられて生きていこう ～

報恩講 腹話術「一心くんの得度」



新型コロナウイルスの感染が世界中に拡がり、今では一億人を超える人が感染し、死者も三百万人になろうとしている。この一年、三密（密集・密閉・密接）を避けよと叫ばれ続けてきたが、そろそろ我慢の限界が近づいてきた。いつまでこんな状態が続くのだろうか。

春が来て、桜が咲いている。子や孫の卒業式・入学式を祝ってあげたいではないか。家族友人がそろって食卓を囲み歓談する。これほど楽しいことはなからう。大切な人との悲しい別れ。なのに、お線香もあげられないなんて、淋しい限りだ。思えば、三密とは喜怒哀楽の共有であり、それこそ人間の本質なんだ。

感染拡大防止に力点を置けば、人間性を犠牲にしなければならず、人間性を優先させれば、感染拡大を抑えることが難しい。今、世界中がこのジレンマに苦しんでいる。

これはコロナだけのことではない。人間とはジレンマという名の茨の道を歩まざるをえない生き物なのだ。自他のジレンマ。他人を取るか自分を取るか。生と死のジレンマ。生を求めているのに、老・病・死が迫ってくる。

そして今、人間のつくってきた文明社会が大きなジレンマに陥っている。地球温暖化、原発事故、貧富の格差拡大など、豊かさを追求する中で命の危機が迫っている。

さて、どうする。掌を合わせ、頭を垂れ、念仏申しつつ、このジレンマの中を生き抜いていく智慧をいただいでいこう。



令和三年 勝福寺報恩講

終わるようになりました。

また、はじめてズーム（ZOOM）を使って同時配信しましたら、全国各地から2日間で31名の方が参詣くださいました。

当日の法話を渡辺和義さんに要約していただきました。ご一読ください。

今年の報恩講は1月23日24日の両日に行われました。コロナの感染予防のために、お斎をなくし、参拝日を地区ごとに分け、勤行と法話を含めて1時間半で

法話

報恩講を勤める心

住職 藤谷 知道

報恩講を勤める宗教

松本梶丸先生は、浄土真宗とはどんな宗教かと問われれば、「報恩講を勤める宗教です」という一言におさまると言われた。如来の御恩（お恵み）に応えてい

く、それが浄土真宗です。ところが、御恩を感じることのできない忘恩の私がいまです。この私が親を思う心は、親が私を思ってくださったお心の何万分の一にもならない。それと同じように衆生である私たちが阿弥陀様の御恩を思うことなど、これぼつちありません。

如来大悲の恩徳

それなら、どうして親鸞聖人は、「如来大悲の恩徳

は身を粉にしても報ずべし 師主知識の恩徳も骨をくだきても謝すべし」と言われたのでしょうか。親鸞聖人に「弥陀の五劫思惟の願をよくよく案ずれば、ひとえに親鸞一人がためなりけり」（『歎異抄』）と



いうお言葉があります。親鸞聖人は「この私は、はるかな昔から如来に願われていた私であった」ということを善き人・法然上人から教えられました。そして、教えられて初めて気づいたその感動を「身を粉にしても報ずべし」と言われたのだと思います。「ひとえに親鸞一人がためなりけり」、心に響く言葉ですね。

生きる根拠

ユニセフの報告書によれ

ば日本の子どもの身体的幸福度は1位なのに精神的幸福度はワースト2位でした。また、他国に比べて、親や先生に対する尊敬度も低く、自己肯定感も低い、という報告もあります。親も子も「自分はこの在り方でいいんだ」という安心感がないのです。それは、この自分をよしと言ってくれる仏様が心の中からいなくなっただけではないでしょうか。

師主知識の恩徳

「自分のいのちの深いところに仏さまがおるぞ」ということは自分の頭では絶対に分かりません。それに気づいた先生に教えてもらってはじめて「そうだったのか」とうなずけます。このことを林 暁宇先生は、

もしみおしえにあわざれば
生まれしこともむなしけれ
もしよきひとにあわざれば
今日のよろこびしらざらん
と詠まれました。

*林暁宇先生は一九二三年、北海道浦幌町生まれ、一生を清貧の中で念仏一筋に生きた浄土真宗の僧侶です。



(御華束飾りづくり)



(御華束モチつき)



(お花立て)

今年は三密を避けるため、役員だけでやりました。

腹話術

一心くんの得度

あっちゃん(A)とおばちゃん(O)の対話

坊守 藤谷純子



A 僕、この間、おかみそりを受けて「一心」という法名をいただいたんだ。どんな意味なのかな？

O 「仏様の教えをひとすじに聞いていきます」というのが一心だよ。そういう一生を送って下さいという願いをかけて、仏様がつけてくれたのが法名なのよ。

A おかみそりの先生は「お念仏を申すんですよ」と言われるけど、お念仏って何なのか、何で僕が念仏申さねばならないのか、そ

れがわからない。朝晩のお念仏は申しているけど、その先が分からない。僕はさ、ありのままの自分が恥ずかしいし、嫌いなんだよ。
O そんな私たちがありのままに生き生きと生きられるお浄土を建立して下さいたのが阿弥陀様。そこに「帰れ！」と呼んでくれているの。その阿弥陀様に「ありがとうございます。なんまんだぶつ」と応えるのがお念仏なのよ。そうしたら「精一杯生きていくぞ、皆と一緒に頑張るぞ！」って自然に思えてくるよ。だからこれから「なんまんだぶつ」を一緒に申していきましょうね、あっちゃん。
♪ (最後に、あっちゃんが元気に歌をうたいました。)

♪ 僕の名前は一心

♪ ナンマンガブツの一心

♪ 仏のお弟子になったんだい

♪ 阿弥陀の教えに生きるんだい

♪ 僕の名前は一心

♪ ナンマンガブツの一心

♪ 阿弥陀の智慧に照らされて清く明るく生きるんだい

僕の名前は一心

ナンマンガブツの一心

阿弥陀の願いに生かされていのちいっぱい生きるんだい
何があっても生きるんだい

(「ヤン坊マー坊」のリズムで)

2月は在家報恩講が各ご門徒さんのお宅で勤まりました。そのお勤めの感想をご紹介します。

在家報恩講にお参りして

向野 理恵(院内)

先日、在家報恩講に家族皆でお参りさせて頂きました。コロナ禍中で、以前と違う事が多々ある戸惑いと、コロナ



聞き書き担当者の感想

これからの一心くんの成長が楽しみですね。林暁宇先生の歌には報恩講の心が表現されており、「その通りでございます」とうなづかされます。南無阿弥陀仏 釋和敬

禍ゆえに余計に増えた仕事の時間等で、まるで海を溺れながら泳いでいるような日常ですが、家族とただひたすらお経を唱えたことで、落ち着いて静かな気持ちになりました。一緒に参加した子ども達は、二人とも落ち着きスッキリした表情だった様に思います。特に下の子は、毎朝、祖父母と仏前にお参りするのが楽しいようです。そのおかげか、日常のふとした時に、目に見えない存在に抱かれ守られている事を素直に受け止め感謝する姿が、度々見受けられます。この様、ご先祖様はもちろん、先日は、お雛様を仕舞う際も姉妹で手をあわせる姿が嬉しかったです。これからも子ども達に、お参りを通してこの気持ちを持ち続けて欲しいです。



USATVの釜さんが本堂の様子を取材中です。



予想以上のお参りで、うれしいようで、ちょっと心配…



勤行は、正信偈・同朋奉讃式による念仏・和讃でした。

ご門徒さんこんにちは! 第十九回

3世代の大家族

今回は、勝福寺の行事では必ず姿を見かける松本順さんと知代さん夫婦をお訪ねしました。玄関を入ると奥から3人のお孫さんの元気な声が聞こえてきました。順さん夫婦は息子さん夫婦と同居しています。

ご主人の松本順さんは今年66才。6人兄弟の末っ子です。高校を卒業すると地元にあった九州松下電器に就職しました。退職後は自宅で農業をすると共に現在は障害者の就業支援で設立されたNPO法人に自分の畑を提供しボランティアで農業指導をしています。知代さんも同じ66才で、耶馬溪の生まれです。3人兄弟の長女で、高校時代にソフトボールをしていた縁で実業団チームがある九州松下電器に就職しました。そんな二人に馴れ初めを尋ねると、県内には女子ソフトのチームが少なかったので、順さんが所属していた会社の

野球部に練習相手になってもらっていたことが縁となり、結婚したそうです。

二人は今年で結婚して40年になりますが、3人の子どもに恵まれ、末っ子の信二さん夫婦と同居しています。知代さんに自分の同居体験を尋ねると、「私は最初から同居す



**困ったことがあったら
勝福寺に行つてごらん!**

松本 順・知代(大塚)

ると決めていた。途中から一緒に住んでも上手いかわからないと思っていたから」だそうです。結婚以来、舅と姑さんが亡くなるまで22年間一緒に同居しました。

舅さんが亡くなった時、近所の人が「大塚一、しゃーしい爺さんやから、3年持つかと」思っていたが、よう持ったのー」と変な感心をされたそうです。

突然の出来事

そんな元気な知代さんが脳

梗塞で倒れたのは2年前です。旅行から帰って風呂に入ろうとして倒れました。信二さんが気づき、救急車を呼んで病院に担ぎ込みました。幸い一命は取り留めましたが、左半身麻痺という後遺症が残りました。それから今日まで、リハビリを続け、最初は体が全く動かなかったのが右側がだいぶ動くようになり、補助を受けながら杖を使って歩けるまでに回復しました。でも日

常生活では介護が必要で車いすの生活です。

普通、重い病気になれば、家の中に引つ込みがちですが、知代さんは以前と変わらず意欲的です。私が「気持ちが悪く切れているんだね」と言うといや、まだ動くという面では吹っ切れてない。やはり自分で動けないということが一番悔しい。でも仏様の言葉に『丁度よい』というのがあるでしょう。その言葉は私に言うてくれてるみたい。考えてみ

れば、リハビリも出来るし、側には順さんがいてくれる。動けないけど、周りの人が世話してくれる。病気に感謝することはないけど、そういう面では良かった。そう言えるようになったなあ」と話してくれました。



息子さん夫婦と3人のお孫さんに囲まれて

鉄人・順さん!

ご主人の順さんの性格は山登りでよく分かります。体の弱い人の側に寄り添って一番最後を歩きます。そして引き受けたことは最後までできっちりやり遂げる性格です。

順さんは知代さんが入院中に肝臓がんが見つかり、急遽手術をしました。その入院中、毎日病院の中を2万歩歩いて

いたそうです。そんな無理をした理由を尋ねると、退院した2週間後、「蓮如上人の御影道中」で世話役である供奉人を頼まれていたからでした。普通、供奉人は何年も参加したベテランが選ばれますが、順さんはまだ2回の経験しかないのに選ばれました。順さんは率先して蓮如上人の絵像が入った大きな箱を背中に担いで峠を越える役などを引き受けていたそうです。経験は浅いけれど皆への配慮がよく出来る順さんを見込んで、是非とも来年の供奉人を引き受けて欲しいと頼まれたそうです。周りは「病み上がりの体で無茶だ」と反対しましたが、やり遂げました。

そんなご夫婦の姿からたくさんの方が元気をいただいています。最後に皆さんに伝えたいこととはなにか尋ねると知代さんから「何か困ったことがあったら勝福寺に行つてごらん。そして何でも話してごらん。なにかヒントをもらえるよ」のメッセージを頂きました。どうぞいつまでも夫婦で仲良く元気な姿を見せて下さい。

(文責 渡辺 重昭)

3・11 忘れなの鐘に託す想い

藤谷 純子



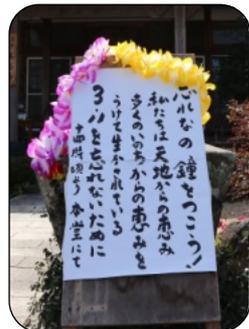
かかっても安全な処理のできないものに手を染めて、今もそれを止めることができな

人間はほんの短い命を、大自然の中で多くの命と共に生かされているのに、天地を汚染し破壊して、自他の命を傷つけ合っている。

そして今度はコロナウイルスからの試練。私達は、四苦八苦を免れない身を誰もが平等にそして一緒に生きている。それを忘れて高上がっている罪深い愚者である

知ること、これがこの世を生きる時に身につけなければならない本当の智慧でなかつたか。

今年で10年になる「忘れなの鐘」は、多くの皆さんが集まって、お焼香をして、被災地の皆さんを憶念いたしました。大地震・大津波そして原発事故、多くの報道を通して、私達の身心も苦痛を受けた日々でした。「原子力 明るい未来のエネルギー」今も懸けられている横断幕の虚偽性が、こ



宇佐で安寧願う鐘突き

【宇佐 宇佐市四日市の勝福寺（藤谷知蓮住持）で11日、東日本大震災（2011年）の安寧を祈願する鐘突きがあった。震災や原発事故の惨事を語り、（藤谷知蓮）

忘れなれた鐘を叩いて12年から毎年開き、10回目。地域住民ら約30人が参加。鐘の音の後、参加者は震災が起きた午後7時40分頃から順番に鐘を叩いた。震災時、福島の原発に爆発し、命懸けで逃げた人も50人を超えた。映画「Fukushima 50」を観賞し、近くに住む無職女性（70）は「悲惨な出来事だ、忘れなれない」と語り、涙を流した。また、宇佐市の長子（70）は「災害への備えや原発事故のような大災害について考える機会にしたい」と話した。

〈 大分合同新聞で紹介されました 〉

**ユーチューブ
宇佐テレビ
笠 宏明**



インターネットのUSA TVはYouTubeを通して、多くの方に宇佐市の魅力を伝えていく活動をしております。活動の内容は宇佐市の名所・風景・お店の紹介をはじめ、今の情勢が落ち着きましたら、田舎でさまざまな体験、発見、学びに出会えるようなイベントもしていきたいと考えております。

多くの歴史が交り合い、今があります。歴史を知っていくことで、いま生かされていることへの感謝の想いを知り、仏教の教えを通して、今の世の中にどう向き合っていくか、そのようなお話をお聞きしたく取材をお願いしました。

今回、動画の時間は18分ですが、実際は2時間以上お話をさせて頂きました。できるだけ藤谷住職の想いを伝えられるように何度も打ち合わせをして作りました。勝福寺さんの良さが出せていたら嬉しいです♪

これからも様々な形で宇佐市の魅力を伝えられるように精進していきます。



USA TVのバーコードです。スマートフォンをかざせばすぐ見ることが出来ます。

「戦争ホーキ」の願い

勝福寺のかはづの会は平成19年から「世の中から戦争が無くなってほしい」の願いを込めて「戦争ホーキ」を作っています。その材料の絹糸を最初から提供してくださっている後藤アヤメさんに豊川小の五年生から「平和学習でアヤメさんに自分の戦争体験を話して欲しい」との依頼がありました。その時のアヤメさんのお話と、それを聞いたこども達の感想も併せてお読みください。



平和についてのお話しを豊川小学校でしました

後藤アヤメ(大塚)

戦争のこと、その前後の生活のこと等のお話しを聞

きたいという依頼が、豊川小の五年生からありました。私は終戦の年が小学校の二年でしたので、戦争の凄まじい体験はありません。でもその頃の自分なりに体験したことを思い出しながらお話しさせていただきました。四キロもあつた登下校の山越えの道のりのこと。戦争も激しくなつてそれもなく出来なくな

後藤アヤメさん
平和についてのお話
ありがとうございました



豊川小学校
五年生一同
令和2年度 3月

らお話しさせていただきました。四キロもあつた登下校の山越えの道のりのこと。戦争も激しくなつてそれもなく出来なくな

部落の民家を借りての学校が出来ました。その下校の途中、B 29に遭遇し、田んぼの溝に身を伏せて隠れ、ゴーという音の恐ろしかったこと。少し離れた所に大分市があり、そこに航空隊があつたため爆撃をされ、一面火の海になつて火柱もまじつて空が真っ赤に燃え広がる場面等話しました。そして最後に、坊守さんに協力して頂きながら、戦争の反対とみんなが穏やかに幸せに暮らせるよう祈りながら作った「戦争ホーキ」を五年生の皆さんに渡してもらいました。

感想

○私はきちんと、アヤメさんが言っていたように、人の気持ちを考えて行動しようと思いました。B 29が来て、かくれるのがすごくこわかっただろうと思います。○戦争ホーキというステキなものををくださってありがとうございます。「アミダ仏のねがい」を守ろうと思います。



「あこがれの空の下」上映記

糸永 伸哉

去る3月21日、地元で子ども食堂を展開する「手と手未来 hug キッチン」の主催で、勝福寺の本堂において、子どもの自主性を尊重したユニークな教育方針の私立和光小学校(東京都)に密着したドキュメンタリー映画「あこがれの空の下」教科書の無い小学校の一年生」の上映会が行われました。



午前午後2回の上映で100名近くの方にお集まりいただき、何よりも子どもたちの自主性を尊重するという創立以来の理念に基づいた学校の中でのびのびと

生活する子どもたちの姿に、時に笑い、時に感嘆の息を漏らす密度の濃い時間となりました。午後の部の上映後には映画に感銘した20名ほどの方々が車座になつてそれぞれの教育に対する思いや、今後の展開への希望を1時間に渡って語り合いました。

編集後記

今回の「ご門徒さんこんにちは」松本順さん夫婦です。思いがけない知代さんの病気に一時はショックだったでしょうが、それを乗り越えた二人の信頼関係。そして知代さんを支える家族の思いやり溢れるやりとりを聞きながら、大家族の良さをつくづく羨ましく思いました。

また、紙面の都合で紹介できませんでしたが、知代さんの仏法に対する真摯な思い、そういうもの全てが、知代さんの「病気に負けないぞ」というフアイトに繋がっていくのですね。

渡辺 重昭